特251
661

の泉　第一輯

國體の精華

附、望月圭介先生讃德偈

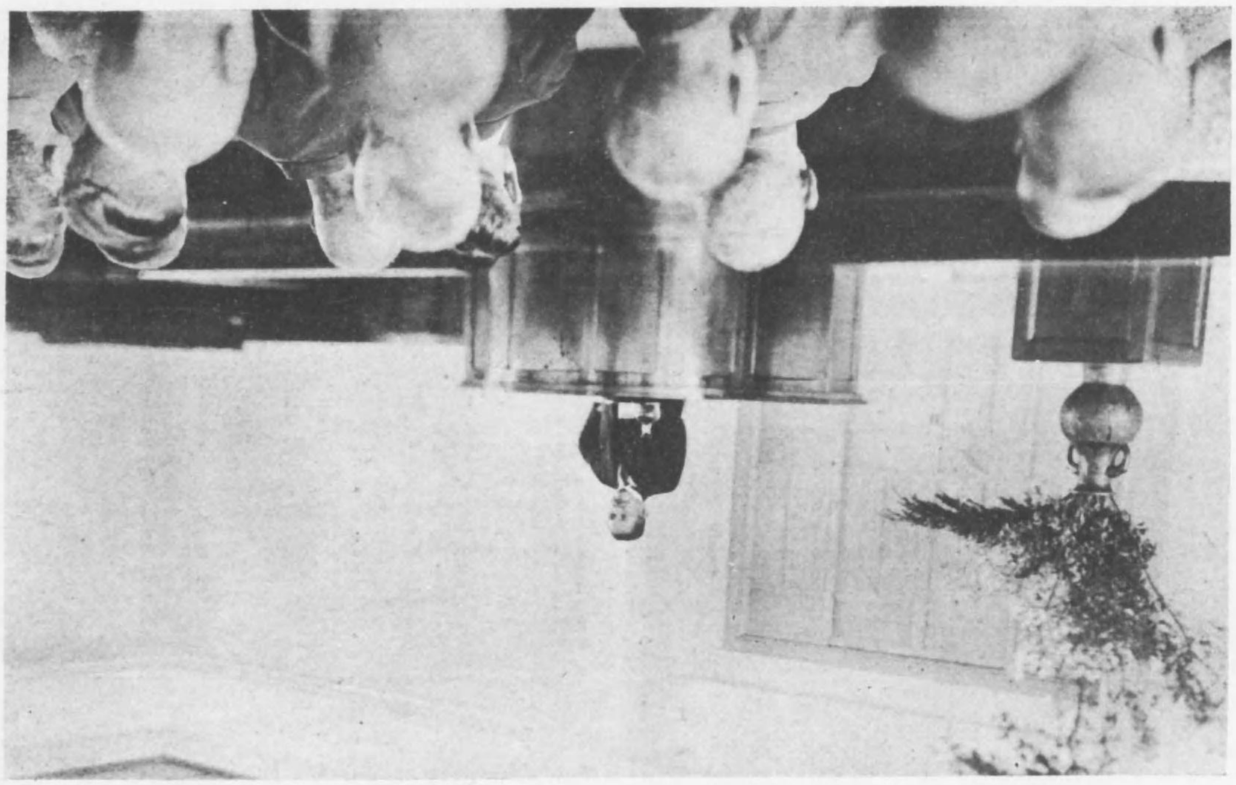
廿日出　庵作

望月圭介先生講述

財團法人　靜岡縣興誠商業學校

始

特251
661



生先小生月望ノ上壇

序

人情大臣!!如何にも望月先生の御本質を適切に言ひ表はした綽名であると思ひます。勿論それは決して浮薄なる所謂の人情ではなくして、其の源は深く宗教的信念に根差したものであることは申すまでもありません。此の意味より致しますれば、望月先生こそ日本の産める最初の宗教的大政治家であると推斷致しても良いかと存じます。加之自由黨以來四十年間清節を守り乍ら、憲政のために盡された御功績、並に今上陛下の御大典當時内務大臣として殘された御勳功、更に今日岡田擧國一致内閣の支柱たる元老閣僚としての御活躍等を思ひ合せますれば、結局現存せる政治家中の最高峯として敬仰致すのが當然であると思はれます。斯る偉大なる先生が、本校のために態々東都よりお越しになり親しく御講演下さることとて、全生徒全父兄は固より全職員有志達の喜びは言語に絶するものがあつたのであります。忘れも致しません、昭和十年四月廿二日!!此の日こそ確かに本校にとつては永久に記念すべき意義ある日でありました。新裝成れる彼の大講堂に於て、千三百人にも達する聽衆を相手に三時間半に及ぶ長い間、慈顏溢るゝ御樣子にて諄々とお話し下されましたあの時の光景は、今も尙記憶に新たなるものがあ

ります。斯る大講演をその儘聞き流しにして置く事は、如何にも勿體ない限りと存じまして、御講演の内容を可成詳細正確に錄して『誠の泉』集の第一輯として發行する事と致したのであります。併し事陛下に關する長多い多數の記事が重要なる部分を占めて居ります關係上、如何にも疎漏なき樣最善の努力は致しましたものゝ、尙ほ完全を保し難い點もある事と存じます。此の點に關しましては、先生並に讀者各位の御寛恕をお願ひ致して熄みません。

最後に附錄として先生の讃德偈（四句七十節）を併載致しましたが、是は卑生が永らく先生の御許にお事へして親しく御教訓に接し、崇高なる御人格に打たれて自然に咏み出されたものであります。勿論是によつて先生の御盛德を宣揚する所ではなく、却つて先生の御人格に對する評價を底下するの虞れなきやを憂ふるものでありますが、併し字句の巧拙は兎に角、終始一貫誠を基調として眞情溢るゝものある事を御洞見の上、數々の御教訓を御會得下さる樣切にお願ひ申し上げます。

昭和十年十一月一日

廿日出彦識

國體の精華

望月圭介先生講述

一、緒言

私は廿日出校長とは同縣同地方の者で、長い間の親しい知り合であります。君が御地方へ參つて、皆さんの御親切御厚意の下に此の學校を新築經營をして居られるので、今度參つて見たのでありますが、斯程迄立派な學校だらうとは思はなかつた。私が豫期して居りました以上の皆さんの御懇情御援助を、廿日出校長に對してお與へ下さることは、洵に感激に堪へないのであります。此の場合に深くお禮を申上げて置きます。

實は一度來て見てくれといふことは隨分長い間のお話であつたのでありますが、色々俗事に取りまぎれて今日まで參ることが出來なかつたのであります。今日參つて見て、其の莊大にして凡て能く行屆いてゐるといふことに對して一驚致しました。何かお話をせよといふことでありますが、實は私は皆さんに對して充分なるお話を申上げることが出來ないかも知れません。最初に只今のやうな御紹介を得て大

變話がしにくい。別に私が左程の取得がある譯ではありません。特に政黨の話が出まして、憲政上の功績といふ樣な言葉もありましたが、一體私が師事した先輩が、憲政の爲には資産をも捨て命を捨てゝ築き上げた立憲政治は、今日はどういふ狀態であるかと言へば、私は憲政の常道をはづれてゐると思ふ。私が今日政黨に籍を置いて居るといふ事は、ありやうに申上げれば、此の政黨を引直して、もう少し良くしなければならぬと思ふからであります。先人が努力して政黨らしいものにしたのを、私共の時代に於て斯ういふ風に頽廢せしめたといふ事は、是は憲政の功績ぢやない。寧ろ先輩のした事を頽した罪大なりといふ事になる。私共は其の責任は之を避け之を負はぬといふ事は出來ぬと思つて居るのであります。故に私は先づ最初に此點を特に明かに致して置きたいと思ひます。

二、我が國の發展性

次に私は日本帝國の臣民の一人として生れて來たことを非常に喜んでゐる者であります。全く日本は世界のどの國にも劣らない世界一の國になして行くことの出來る凡てのものを備へてゐる國であると思ふ。特に吾々が上に戴いてゐる一天萬乘の天皇陛下は、建國以來の名君、日本初つて以來の賢明なる君主で在られます。明治天皇の御再來であるといふことを申す人がありますが、私もさもあらんかと喜んで居る一人であります。而してこゝに心得なければならぬ事は、現在盛に聞えまする非常時國難といふ事に就いてであります。維新以來吾國は度々非常時國難に際會したけれども、是迄のは日本が弱國の時

代に於ける非常時國難である。弱國の時代に於ける國難は、氣づかはしい點では困るが、併し一方には同情して呉れる國がある。是は個人と同樣に、弱きを助けるといふ心持で同情してくれるのである。日露戰爭の場合に、日本が勝つと思つた者は世界に一人も無い。それはさうでせう。國の大きさを較べて見ても、人間の數を較べて見ても、金の力に於ても、兵隊の數に於ても、銃器・彈藥・兵糧・防寒具、體の寸尺、體力を較べて見ても、目に見えるもので日本が優つて居るといふものは何一つ無い。其の內にだん〳〵金がつきて戰が出來ない。桂さんが總理大臣で、維新以來の第一の政治家である伊藤公とか井上侯あたりが、之を援けてやつたけれども、金がないから此先戰をして行くことが出來ぬ。外國から金を借りなければならないといふ事になつた。それで色々な人に話をして見たけれども、借りに行き手が無い。それは行つても貸して呉れないといふことが殆んど決つてゐるといふやうな場合に、指を銜へて泣き面をかゝへて歸るといふことは堪へられないからである。其の時分に、然らば行かうと云つたのが今の大藏大臣の高橋是清君。處が高橋さんの知り合といふ者は皆とめた。目當のないのに向ふへ行つて、指を銜へて歸るといふやうなこんな馬鹿なことをしてどうするかといふのだ。其の時に高橋さんはそれは先方でも貸して呉れないかも知れぬ。くれないかも知れぬけれども、今日金がなければ戰が出來ない。人事を盡して見ていかぬ時には仕方がないが、今日は一個人の利害得失を考へて居る時ぢやない。是は國を擧げてのことであるからといふので、友人知己のとめるのも聽かずにアメリカへ行き、種々の宣傳工作をして、日本は新進であるけれども、將來有望な國であるから、倒すといふやうなことは決し

てないとしきりに說いたので、其の結果としてイギリスが公債で金を貸せる、アメリカも一部之に乘るといふことになつた。此話を進めてゐる時分は、鴨綠江の戰では日本が勝つたが、旅順は陷るといふけれどもまだ陷ちてはゐない時で、結局日本が勝つなどゝは思つてゐないけれども、それでも弱國の時代であるから金を貸してくれる國はあつたのである。然るに今度は世界三大强國の一である。强國の非常時である。强國の非常時になつて見るといふと、世界各國で、日本に同情して日本の爲によかれかしと思ふ國はたゞの一國もない。支那と日本は唇齒輔車の國であるから、親善にして行かなければならないといふことは當然すぎる程當然である。然るに日本と支那とが親和或は親善に近づきすぎるといふと、イギリスでもアメリカでも公然之に對して反對非難の聲明を出すといふ有樣である。然らばいかにすべきか。卽ち國民は如何なる覺悟を持つべきかといふに、國民互に、有ゆる方面の者が共力して——對立抗爭はいけません——鼎の足のやうに力を併せて國家を支へて行かなくてはいかぬ。其の如何によつて國家の興廢が定まるといつてよいと思ひます。私はもう十年乃至十一年此の八千萬の國民が心を合せて行つたならば、世界に於て恐るべき國は一國も無いだけの國になるといふことを、私の首をかけても斷言して見たいと思ひます。やゝもすれば戰爭々々と申しますけれども、成る程國防といふものは忽には出來ない、缺陷があれば何時乘じて來るか分らないけれども、ヨーロッパ邊りでもドイツが斯うフランスが斯うというて、今にも戰爭になりはせぬかといふ風に言ひますが、遂に戰爭をやつたといふ風には聞かない。是からは戰爭は出來ないといふことは、日露戰爭で使つた大砲の彈の幾萬倍を世界戰爭でヨー

ロッパで使つてゐる。ベルダンといふ所の戰に四百萬の大砲の彈を使つてゐるといふことを考へれば、金がかゝつて戰爭など出來るものではないといふことが分る。而してこゝに注意しなければならないのは、國防は戰爭の準備行爲ではないといふことで、これは特に明にして置かなければならない。戰爭で以て負ければ夜逃げをしなければならない狀態になり、勝つても破產である。だから外國に乘ぜられないやうにしなければならないけれども、好んで戰をすべきものでないといふことは昔から敎へて居る通りである。全く止むを得ない場合でなければ戰爭などすべきでない。日本が今日迄戰爭をして負けてゐないといふのは、この儘にして居つては國が亡びるから、國民が意氣と力を以て奮起したからである。今後はどうしても經濟戰である。日本人は自分の國で作つた米飯を食べ、おかずは梅干でもたべ、パンにバタを塗つて食べ、あとでコーヒーを飲まなければならないといふ國民と比較して、非常にやすい生活費で生活してゐる。從つて勞働賃金もやすい。其のやすい賃金と銳敏な頭と、よく利く手先とで、正確な廉價な品物を產出する。これと競爭して、市場で之を凌いでゐるといふ國は世界にない。其の結果英國はインドに對して高い關稅の障壁を設けて品物を高くし、安い品物を買はせぬやうにしてゐる。けれども目の前に安いよい品物があつて是が安く買へるのを、英國政府が關稅政策によつて之を使はせないといふやうな事をしても、インド三億の民が、いつまでおあづけを食つたやうな顏をして之を見てゐるか。結局此のドテは切れる時がなくてはならぬ。若し英國がかれこれ云ふならば、インドの國民は英國の羈絆を離れて獨立すると思ふ。又インドがさうなつて來るといふと、其他の各國の屬領に於ても、

何んでも安いよい品物があるのに之を買つて使はないで指をくはへてゐようか。日本の品物は潮のやうに海外へ出る。其勢で行つたならば、恐らくは世界の富は悉く日本に集つて來る。今や白人文明は殆んど其底をついて居ります。物質文明は其底をついてゐるのである。是から何が之に代るかといふと、佛教儒教を基礎とした東洋の文明、卽ち精神文明が世界を支配するだらうと思ひます。この東洋の精神文明は共存といふことを基調としてゐます。そして人類の共存といふことに反對する人類はありません。共存は宇宙の眞理である。此の眞理を背景とする東洋の精神文明が、世界を支配する時が來ないでどうしませう。ことにわが日本は今日迄正しきが爲に天の大なる惠を受けてゐる國であります。日本がロシヤの權力を滿洲から追拂うた。是は滿洲は日本の生命線であるから、あすこにロシヤが權力を持つてゐるといふことでは日本が將來伸びて行きやうがない。首玉を握られてゐる。そこで日露戰爭で以て、日本存立の上からあの戰をしたのであります。日本はどうしても滿洲へ日本の權利を植ゑなければならない。一體支那の官憲などは、平素日本の恩義を忘れて餘りに我儘なことをし、滿鐵あたりが電信柱を一本得るにも、中々支那の役人がサインをしない。向ふに行つてゐる吾國の役人は、文官だらうと武官だらうと、皆長い間悲憤の涙にくれたことは多々あります。支那の軍隊では、大砲でも機關銃でも、みんな日本の租借地日本人の居留地に其の砲先を向けてゐるのである。馬鹿にするにも程があると言ひたい位甚しい侮辱です。處がたま〳〵柳條溝の問題が起り、御承知の通り國際聯盟を脫退し、上海の戰爭となり、是はどうなる事だらうかとお互は擧つて心配した。上海へはアメリカの東洋艦隊が參つたが、恐らくあの時はお互に大砲を打ち合つたりして、兵火の間に見えるのではなからうかといふ考は、同艦隊の司令官も持つてゐたかも知れない。といふのはシンガポールでアメリカの水兵が千何百人か逃亡してゐる。これは戰爭を恐れた證據である。日本の軍人は逃げませんけれども、アメリカの軍人は逃げる。それで來て見るといふと、日本軍人の意氣、特に感じたのは有名な爆彈三勇士である。人の力には大なる差はないが、自分を守らずして他を守る誠の力は廣大であつて、爆彈三勇士が、自分で爆彈を持つて自分を無いものにしてあの鐵柵を破つた。あの爆彈三勇士が破らなかつたならば、幾人あそこで以て犧牲になつてゐるか分らない。私は日本の國の精兵を以てすれば、多くの人の命を失はなくても出來るだらうと思ふが、併し三十人五十人七十人の人は死んだかも知れない。然るに三勇士は彼の樣な働をした。此の君國の爲に同胞の爲に自分の身を捨てゝかゝるといふ誠の力と德の力は、偉大なものであると思ふ。外國人などが、爆彈三勇士とは爆彈を腰につけた三人の事だとばかり思つて居たら、大きな間違ひである。日本人は、まさかの時には八千萬の悉くが腰に爆彈を持つ國民であるのである。この事が、あの場合に於て日米戰爭を押へ付けた大なる原因になつてゐるといふ事が窺はれるのであります。一體今までは滿洲々々といつても、奉天以南大連旅順あたり迄を指して居たのであるが、これを契機として南北滿洲、錦州、熱河などを一にした滿洲國が出來、今日滿洲國の皇帝が日本に見えて、上下官民が熱誠を以て之を迎へるといふ樣な處まで進んで來たのであります。然るに其の時、秩父宮樣を滿洲國の皇帝にする考であるといふデマが飛んださうでありますが、併し日本人は天子樣、滿洲國の天子樣といふ言葉を聞く

といふと、頭のどん底まで緊張して、不可思議な氣持が現はれて來るので、是で日滿の關係は非常によくなつて行くと思ひます。そして外國でも此の大勢を動かすことが出來ないから、滿洲を承認する國が出來て來はしないかと思ふのです。若し滿洲が、唯戰爭の力で以て斯ういふ風になつたといふことであれば、こんなに調子よく行くものではありません。論功行賞の上から行けば、全く軍人の功績を忘れてはならないのであります。併し又一方では軍人が威張つて仕樣がない、などといふ事をちよい〳〵聞くことがありますが、私はあの事が始つて三年であれだけのことをして、日本の生命線を確立し、又滿洲各地の規律といふものが立つてゐる今日、軍人の力を緩めるといふことは出來まいと思ひます。併しここではつきり申して置きたいのは、馬上で天下を取つて馬上で天下を治め得た例は未だ曾てありません。軍人は軍人としてのことを爲したが、飽く迄其の本分を守つて、先程申しました通り各方面の者と協調して、鼎の足の如くになつて互ひに支へて行くといふことの考へだけは、忘れてはならないと思ひます。而して神にまします一天萬乘の君、建國以來の名君、明治天皇の御再來と敬まはれる所の吾が今上陛下は、いかなる御方であるかといふことに就いて知つて戴かなければならない。

三、今上陛下の御聖德

陛下にお近づきをしない者は、陛下といふものを絶對自由の御持主と御解釋申上げて居りますが、眞に咫尺の間に拜して見ますと、中々そんな譯ではありません。特に私は役をやめる前、昭和四年六月初

旬、八丈島大島御巡幸、大阪神戸と八日間も同じ艦で陛下のお供をして、毎日仰せられる事、行はせられる事を拜して、感泣せざるを得なかつた。畏多い事ではありますが、陛下は誠に神でいらせられます。其の人間事では出來ない、卽ち毎日拜して居りました事を、唯今皆さんに申し上げて、吾が一天萬乘の君が眞に建國以來の名君であらせられるといふ事を、徹底的に皆さんの頭の中に入れて戴きたいのであります。陛下は御幼少の時分から普通人と異る所があらせられました。鈴木侍從長の奥さんが、今上陛下が六つ七つの御時分からお附きして居られましたが、其の奥さんから、乃木大將に關するお話を伺つた事があります。私が申上げるまでもなく、乃木大將は西南戰爭で敵に聯隊旗をとられ、一死以て此の不名譽を取返さうと思つても、彈丸一つ當らず傷一つうけない。又日淸戰爭では、こゝで以て戰地から陛下に對して申譯をしたいと思つて、常に危ない所を選り好んで進まれたけれども、又傷一つ受けない。日露戰爭では、第三軍の司令長官として旅順攻擊に向つて、隨分多くの人を殺した。若しあの時、乃木さんが二人の子供を殺して居らなかつたならば、あちらで以て自殺して歸らなかつたぐらうと私は思ひます。先づ自分の子供をみんな戰死させて、せめてもの申譯にと思つて日本に歸つて、陛下にお詫をしてから後に自盡する覺悟であつたらしい。だから一將功成り萬骨枯るゝの謗を如何せんというて、涙を流して泣かれたといふことであります。それで明治天皇に拜謁してから死なうと思つたではないかといふことは、陛下に拜謁して西南戰爭のお詫を申上げ、日淸戰爭日露戰爭に於て陛下のお寶を殺したお詫をして、お暇をして御前を下らうといふ時に、明治天皇が乃木大將に、短氣を起してはいかぬ。早まつ

てはいかぬぞといふ御言葉があつたといふ事である。そこに至るといふと勅命である。明治天皇は御情深い御方であるから、それから直ぐ乃木さんをお召しになつて、お前は子供がなくて淋しからう。其の代りお前に多くの子寶を取らせよう。と仰せられて、學習院の院長にお就けになつた。そこで今の陛下も、秩父の宮様も高松の宮様も、皆乃木さんの御教育の下に居られた。乃木さんが死なれる前日、皇太子卽ち今の陛下に拜謁をされて、日本の建國以來の國體精神をずつと述べて、では將來日本の天子として國を治め民を愛される——愛撫といふ言葉を使はれた——民を撫で可愛がつてやらなければならない。今私が申上げたことを覺えておかれて、何時までも之を思ひ出して下さつて、どうかわれは將來日本の天皇として國を治めるものであるといふ事をお忘れにならない樣にと申し上げました。其の時分の陛下は、乃木閣下はどちらへ行かれるのでありますかとお聞きになつたと申します。乃木大將は院長卽ち校長でありますから、斯ういふ樣に、どんな場合でも乃木閣下院長閣下と申されて、決して閣下といふお言葉をお忘れになられた事はない。他の人の事は東鄕元帥、何々大將といふ樣に呼ばれたと申しますが、乃木大將だけは必ず閣下の敬稱を附けてお呼びになつたと申すことであります。丁度學校であるから申すのでありますが、學生生徒諸君や何かは、この點を十分お忘れにならないやうに願ひたい。どうも色々の學校に行つて見るといふと、少し顏が長い先生が居ると、「おい馬がゐる」といふ。少し色の黑い先生がゐると「おい熊がゐる」といふ。（笑聲）然るに畏多くも今の陛下は、御自分の師に對しては閣下といふ敬稱をお忘れにならない。そして秩父の宮樣高松の宮樣は兄君がかういふ風でありますから氣を付けなければならないといふことを懇々と仰せられたといふことであります。そして陛下が、何處か遠方へ行かれるかとお問ひになつたのに對しては、乃木大將は、イエ參りません。私は此の御大葬に就いて外國武官の接待役を承つて居りますから、是から忙がしくて拜謁も出來ぬと思ひますからと申上げて、退下致しまして、其の翌日自盡したといふことであります。是は御幼少の時分の陛下の御逸話でありますが、私共が現在に拜した事は、虎ノ門事件で、難波大助がピストルで陛下（當時皇太子）の自動車を狙撃し奉つた。其の時陛下は大正天皇の御名代で以て、御年十九であつたと拜して居りますが、議會へお出でになつて勅語をお讀みになられても、少しも御取亂しにもならなければ、御聲も少しもふるへられなかつたので、多くの人は其の時あの事件があつたことを知らないで濟んでしまつたのであります。其後私共があの事件を知りまして、驚いて、今後かういふことがあつてはいかないといふので、珍田侍從長をして、是から屢々外にお出ましのないやうにと申上げた所が、十九か二十の若き皇太子は、「それでは國民を疑ふことになりはしまいか」と仰せられた。一人や二人かういふ不心得者があつたからとて、さういふことをしては、全般の信賴すべき國民を疑ふことになりはしまいかといふお言葉は、十九や二十のお若い方の仰せられるお言葉ではない。天の聲ならずして何ぞや、神にあらずして何ぞやといふ感じが致しました。

昭和三年八月に那須野御用邸に天機奉伺として、東久邇宮樣賀陽宮樣及び倉富樞密院議長、中橋商工大臣、勝田文部大臣、白川陸軍大臣、私內務大臣都合五人が參りました。そして晝食の時、陛下を中心

と致しまして、侍從長侍從武官長と共に一同御陪食の榮に浴しました。其の時色々なお話がありましたが、先に乘車中から東久邇宮樣が私に向つて、あなたは日本主義をしきりに高調せられるが、日本は家族制度の國ですねと申された。そこで私は、何れ歸りましてから御邸へ參つてお話申上ませうとお答へして置きましたが、食事の時又宮樣が、內務大臣は日本主義といふことをしきりに强調されるが、スポーツはどうですかと仰しやられた。どうも陛下の御前でして、心にもないことを申し上げるといふ譯にもまゐりませんから、お尋ねに對しては、どうも私は本來競技みたやうなことには餘り趣味をもちません。まだ明治神宮のあのグラウンドへ一度も參つたことがありませんから、水泳や徒步競爭をやつて居りますが、それは惡くはありませんが、學生は學校にあつて敎育を受けなければならん。それが學業をほうつて、多くの旅費を使ひ暇をつぶして外國へ行つて、泳いだり走つたりするといふことはいかぬと思ひますが、御前でありますから、之も亦汽車の中の話と同樣に、東京のお邸へ伺つて申上げるとお答した。所がそれが馬の話に移つて、どうも日本の選手が勝ちさうなものだといふことから、白川陸軍大臣が、どうも騎手の力に於ては外國の人に負けぬと思ひますけれども馬が劣つてゐるといふと、列席の人々は皆馬のことに就いて相當なものですから、何ういふ馬がよいとか何うしたらよいとかいふやうに話が大變はずんだ。そして話の終つた時分に、吾々の若き陛下は始めて口をお開きになつた。それまではお笑ひになつて居られましたが、そこで初めて口をお開きになつた。どう仰せられたかと申しますと、馬の優劣はさることながら、インド洋上の暑い氣候では、馬が疲勞して健康を害して居なかつたかどうかといふことに懸念はあるまいかと仰せられた。此の御言葉に、一同は皆陛下の御英明に今更の如く感に打たれて、直ぐには言葉が出なかつたのであります。馬のことなら專門の白川陸軍大臣、奈良武官長、それから宮樣が軍人であられたが、生物と氣象との關係といふ事に言及した者は一人も無かつた。然るに陛下は、皆の言葉の終つてから、長路の事だから健康を害しては居らぬか、其の點はどうかと仰せられた。實にどうも陛下の御英明に畏れ入つたのであります。そして其の御言葉が何時も「さうではあるまいか」「さう思ふがどうか」といふ樣に仰せられるのであります。それで其の時また別室で陛下を中心に再び色々な話が始つた時に、中橋商工大臣が狸の置物の話をしたので、狸はだますとかだまさぬとか、狸はだまさぬがムジナはばかすとか、いや狸とムジナと兩方ばかすとか、色々な話が出ました。すると狸とムジナと同じものだらうか違ふものだらうかといふ事になつて、それはちがふ、いや同じだと言ひ合つてゐると、倉富樞密院議長から、群馬縣での或る裁判で、ムジナは狸であるか狸でないかどうか、若し狸であるとすると、狩獵法の關係で以て犯罪になり、違ふとすれば犯罪ぢやないといふので、遂に大審院にまで行つたといふ話があつた。其の時私は陛下のお傍に居つたが、陛下は動物に就いて非常な御造詣が深いと承りますが、狸とムジナは同一のものではございませんでせうかとお伺ひすると、陛下は、「いや慾ばつて幅擴げになつて奧が淺いから、どうも研究といふ程のこともないが、狸とムジナは動物學上から言へば同一のものでせう。だますだまさぬといふことは一つの錯覺ではあるまいか」と仰せられた。話は陛下の御一言で明快に結ばれたが、一同大き

な顔をして居ても動物の知識の淺いものばかりであつたと云ふことに深く慚愧に堪へなかつた。其時中橋さんが、此の御用邸は是では手狹でございますから、何とか改築をして綺麗に遊ばしたらいかゞでございませう。此の控所や何かも人が七八人參るともう肩がすれまして、實に手狹でございますからと申し上げた。すると陛下は、こゝを綺麗にすると安心して逗留が出來ぬ。是で充分だ。綺麗にするのどうのといふ考は今もつてゐないと仰せられた。其の御言葉なども、私が申上げるよりももつと御丁寧です。それでこの御用邸はどんなかといふと金持の一寸した別莊の方が餘程立派です。それでも之を綺麗にしようといふ考を持つてゐない是で充分だと仰せられる。誠に恐多いことであります。然して又内にあつては一夫一婦、外にあつては溫情愛撫の御心の御持主で、極めて嚴肅であらせられます。皆さんのお顔を斯うして見てゐると、皆、俺も一夫一婦だと仰しやりさうだが、どうも怪しいのが居る。（笑聲）併し陛下に於かせられては全く堅い一夫一婦であらせられます。私は品川の漁師町に家を持つて、親に對しては大なる不孝を重ねたり、親を苦しめたりして大分苦勞をして來ましたが、それでも頭を擡して陛下の御事を思ふといふと、陛下より樂をしてはゐはしないかと思ひます。吾々は暑ければ緣側へ出て、座布團を枕にして横になり團扇使ひをする。然るに陛下は、坐臥常住自分は日本の天皇であると思召して、左樣なことはなさらない。丁度昭和三年十一月、東北地方御巡幸の砌、原宿の停車場からお供を申上げたが、近衞師團長、第一師團長、東京警備司令官、東京府知事、憲兵司令官、埼玉縣知事、群馬縣知事、其の他沿道の知事、是等にそれ〴〵單獨拜謁を賜はり、それに一々所管事務に就いて御聽取になられた。宇都宮からは福島縣知事、宮城縣知事、栃木縣知事等が又拜謁を賜はり、これも前と同樣であつた。そこで私が陛下の御前に參つて、どうも皆行儀が惡くて申譯ございませんと申し上げると、いや自由にして〳〵と仰せられる。沿道の停車をしない停車場や何かでも地方民が皆奉迎する。それに起立して御答禮の會釋をなさつて後椅子に腰をおかけになつて、チヤンとして御出でになる。原宿を午前八時に立ちまして、午後四時何分かに仙臺にお着きになりましたが、其の間テーブルへ肘一つおつきになつたことはありません。眞に長れ多いお話です。私は仙臺についたら宿に行つて風呂でもあびて寛がうと思つてゐると、とんでもない、縣知事が陛下に縣治一般のことを申上げるといふ。それが濟むと單獨拜謁が九十何人、三組に分れての拜謁が三百人、陛下は實になみ〳〵ならぬ御苦勞をなさつて居られます。それから汽車の中でも、持つて來る外交文書に一々サインを遊ばされる。それがお濟みになつてから、皇后陛下或は御弟の宮樣あたりへ、御親らお詠みになつた御歌をお送りになつたりせられますが、それは吾々の退出した後のことであります。翌朝六時半頃には來てくれといふお言葉によつて、翌朝早く出仕すると、既に陛下は洋服を召してお出でになるといふ樣な有樣であります。

それから、私が御大典の時分に屢々感じたことでありますが、同志社のことで知事や警察部長や上京の署長、警務課長あたりが辭表を出した。それは共產黨の跋扈時代であるから、内務省の局長から、この事件はゆるめてはならないといふので總理大臣にも話さずにそれを下げ降した。さうすると翌日珍田侍從長が御所に參つた時、陛下が新聞を御覽になつて、同志社のことに就いて批評をなさり、是は可哀

さうだ、あれ程晝夜不眠でやつたのだから、あれは仕様がない。どういふ風に取扱つたか知つとるかと仰せられた。そこで私はまだ承つて居りませんからと申し上げると、一層今後氣を付けてやつて貰ひたいといふことを、早く總理大臣に傳へろと仰せられました。それは大變よい御取り計らひで、陛下も御安心を遊ばされたと思ひます。併し是は陛下が國家の職權にお立ち入りになつたのではありません。其點を間違へないやうに願ひたい。又昭和四年六月大阪神戸御巡幸の砌、紀州の臨海研究所へ臨御遊ばされ、そこで以て京都の大學から生物の標本を千六百程集めて主任教授が御說明申上げた。陛下のお手許には一萬からの標本がおありであるから、今回の物などは悉く御承知であらせられたのに、說明者はそれを陛下に御說明申上げるは一生の間に二度とない光榮であるといふので、少しでも委しくと心がけ、實にもう山鳥の尾の長々しく御說明を申上げる。そこでお側に侍つて居た者や何かはたまらない。私共陛下の御後に侍して居たのでありますが、堪へ切れなくなつて、控所へ行つて煙草を吸ひ、もう濟んだらうと思つて參つて見ると、まだ濟まない。私は行つたり戻つたり、三邊か四邊それをやつた。尤も陛下がお聞きになつてゐられるのを、傍に居る私が出來ぬといふことでは、臣下の本分を盡すことが出來ぬといふことのお叱りは充分受けます。又受けなければならないので、其事については私どんな責任も負ひますが、それを陛下は嫌な顏もなさらずに終までお聽き遊ばされたといふことは、是はどうしても神でなければ出來ないことです。此處には教育家の諸君もおいでになるが、それから歸る途で教育家の評判の惡いことおびたゞしい。どうも教育家は常識がない、何といふことだと日々に批評いたしました。

そこで艦に歸つてから樂をしようと思つてゐると、前門の虎後門の狼といふ事があるが、軍艦長門に、師範學校の生物の標本を皆並べて天覽に供する。それがまた山程あるといふ有樣であつた。其の晩に御陪食を賜はつたので、其時、今日は實に泣かされました、よくあの長い說明を御聽取下さいました。彼等は一生の中又と無いことでありますから、子々孫々に對し一家の光榮と思つてゐるでせう。それに陛下の御手許には一萬からの標本がおありになりますので、陛下は大概御承知で入らせられませうと申上げると、大概皆知つて居るけれども、あゝして長く聞いて居る間には爲になり、學ぶことがあると仰せられた。實に恐懼に堪へない事であります。お互ならば、斯ういふ時にはなか〳〵大人しく默つて聞いては居ないのである。然るに陛下は長く聽いてゐる間には爲になる學ぶことがあると仰せられる。是は神でなければ出來ない事である。是はあなた方、其の狀況を考へて御覽になるとよく分る。至誠といふ事、忠孝といふ事には私人後に落ちぬ積りであるけれども、あの時立つてゐるよりか寧ろ殺された方が樂な位でありました。そして艦隊が出發する前に、船で提灯行列をやつて陛下を御送り申した。さうすると之に對して陛下は菊の御紋のついた提灯を左舷で十五分右舷で十五分持たせられて御自ら御答禮遊ばされた。それから又大島で三原山へお上りになつた時、元村へ降りるのは浪が高くて荒れるので、他の方へお降りになつた。さうすると元村では非に常力を落して、折角陛下をお迎へすべく、道路を直し提灯や旗を揭げてゐるのだから、せめて御艦を元村沖でも通して戴いて、それを拜む事が出來たらといふ。所が二里も遠くを航行するといふので、又力を落した。それを私聞きましたから、宮內省の者に話をし

ますと、それを陛下がお聞きになつて、豫定を變更せさせられました。一體行幸の御豫定變更は極めてむつかしい。殆んど後直しは出來ないのだが、それは氣の毒だ、彼處の前を通る許りでは仕方がないことで日の暮れる迄待つて、日が暮れてから、凡ての艦のサーチライトで以て答禮をしようといふ事になつた。元村の注文は艦を拜めればよいといふのに、こゝで以て日の暮れるまで待つてサーチライトを以て答禮をすればよいとは、何處まで御情深いかといふ事は、是は言語に盡し樣がないのであります。

其他、陛下は酒煙草共に御用ひ遊ばさぬ樣に拜せられますが、陛下に伺つて見ますと、用ひない事はないと仰せられます。それで居て、實はお用ひにならぬのであります。これは御陪食其の他の場合に臣下の者が、御前に於て遠慮しはしないかとの思召から、斯樣に仰せ遊ばされる事と拜察せられまして、誠に畏れ多いことであります。

まだ色々申上げると澤山ありますが、要するに私は開闢以來の名君、開闢以來第一の名君を諸君と共に頭にいたゞき、そして此君は皇太子の時代に外國を御視察なさつておいでになられるから、恐れ多い比喩かは存じませんが、鬼に金棒、豹に翼といふので、かゝる陛下を戴いてゐる今日の日本國民が、一致の力を以て事に當つて行けば、通らんとして通らざる所はない情勢であると思ひます。

四、明治天皇の御宸慮

此の陛下が明治天皇の御再來と申されて居るのでありますが、明治天皇に就いて伊藤公の語られた話がある。或時私が伊藤公に向つて、明治天皇は御英邁であるといふ事を承つてゐるが、どういふ點がさうで入らつしやるか。これは臣下の分として申すべき事ではありませんけれどもと申しますと、伊藤公が、それは御英邁である。中々御苦勞をなすつてお出でになるから、何もかも分つて入らせられる。それだから御英邁だ。ことに陛下の御一言で國がたすかつたからねと云はれた。そこで、それはどういふ事ですかといふと、それはロシヤの皇太子の大津事件の時で、是で國はどうなるかと思つて上下擧つて心配をしたのでありますが、其の時陛下が自ら見舞はうと仰しやつた御一言で、實に國が助かつたのだといふ。そこで、それはあなたの入智慧ぢやなかつたのですかと言ふと、伊藤公は居住ひを正して、全體吾國の臣民道として陛下に對して御見舞下さりませなどゝ云へるものかどうか。日本の臣民道はそんなものぢやない。君が疑ふなら後の話をすればよく分る。彼の大津事件のことが東京へ報告があつて、陛下が非常に御心配になられた。私は丁度箱根の環翠樓に行つて居つたが、夕食を食はうと思つてゐる所に電報が入つた。直ぐに箸をおいて、二人引の車に乘り新橋まで戻り、宮內省差廻しの馬車で參內、御寢所で明治天皇に拜謁した。すると飛んだ事が出來たものだ。明日の朝見舞に行くと仰せられたので、私はあゝ是で助かつた、是で國が救はれたと思ひまして、其事を外國大使にも話して、陛下は愈朝六時何分新橋發の汽車で御發輦となつた。恐らくは其夜御一睡もなさらなかつたらうと思ふ。其の時分に私もお送り申したが、其の次の汽車で來てくれと仰せられ、それから京都へお着きになつて、直ぐに陛下はお見舞をすると仰しやつたので、侍醫が、此の大なる御心配の上に昨夜御一睡もなされず、汽車の中

でも御心配の餘りお眠にならず、是から直ぐ御見舞といふことは、玉體にお障があつてはと申上げたので、翌日になつて常盤ホテルに皇太子を御見舞になりました。そして日本國民は決して殿下に對してどうかうといふやうなことを思つてゐる者は無いから、琉球でも鹿兒島でもお巡りになつて、又召上り物もどうか御安心なさつて、御靜養の上お歸りなさつてはと仰せられると、ロシヤ皇太子も感服せられて、今國に問合せの電報を打つたから、どういふことになるか分らぬ。私ももう少し逗留して、各地を見せて貰つて歸りたいと思ふがと言はれた。處がロシヤの皇帝から、早く日本を引上げて、ウラヂオに戻つてから靜養して歸るやうにとのことでありました。私（伊藤公）が行つてからも、日露の親善を圖る爲御滯京して戴かなければならないと申したのであるが、どうも父君とはいへ、所謂君主の勅命で、早く引上げてウラヂオに歸つて來いといふのであつた。其の時ロシヤの皇子や何かは、實に陛下が御自分の皇子に對するが如き御情に對して何とも申さなかつたが、ロシヤの長官が、吾々は日本の軍隊と日本の警察官は信用しません。希くば、陛下が斯程思名し下さつてゐるのであるから、陛下御袖翼の下に神戸から船に乘ることが露國將官の非常な喜びと思ふのでありますといふので、其事を陛下に申し上げると、いや俺は神戸まで見送りするつもりだと仰せられて、二條城から馬車で常磐ホテルにロシヤの皇太子を御迎へに行かれ、陛下、ロシヤ皇太子、有栖川宮威仁親王、西小路と四人で馬車にお乘りになつて、京都の停車場にお着きになり、暫く汽車の時間をお待ちになつて居られた。其の時ロシヤ皇太子が煙草を出されたら、吾が明治天皇は御自らマツチをすつて火をおつけ遊された。之を拜した大臣初め大官共邊に居る者で、泣かざる者はない。いかに日露の國交に陛下が御心痛遊ばされておいでになるかといふことを拜して、泣かざる者はない。又汽車に乘る時分でも、陛下がロシヤ皇太子をかばふやうにして、いかにも陛下御補翼の下にお乘せ申した。そして愈ゝ棧橋にロシヤ皇太子が出られるや、是ではいかにも物足りないといふので、陛下の御思召でお別の宴を致したいというて戻さうとした。ロシヤの官民は又どんな事が起るか分らないと思つて、實に恐れてゐたのでありますが、ロシヤの皇太子は、お招きをお受けすると言はれたさうであつた。所が一旦お受けしたものの、傷所が痛むからといふ理由を述べてお斷りになつて、今度は逆にロシヤ皇太子が、いかにも此儘お別れすることは出來ないといふので、明治天皇をロシヤの軍艦にお招きになつた。其時神戸にはロシヤの大きな軍艦が八隻、ロシヤの皇太子が居られる艦を中にして、後の七隻がそれをとり卷いて居つた。明治二十二年であるから、鎖遠濟遠といふ支那の六千トン位のものが來たのにびつくりして、目をまはさんばかりの時であつた。それで臣下達は、お越しになられるがよからうと申上げる者は一人も無い。向ふは陛下をお乘せしてウラヂオの方へ行つてしまはぬものでもない。一人としてお供しようといふ者は無いのに、吾が明治天皇は、禮に對しては禮を以てせざるべからず、隣國ロシヤとの國交を、自分の一身を以て破ることを防ぎ得れば本望である。國家國民へ自分の一身は委すと仰しやられんばかりの御言葉で、禮に對しては禮を以てせざるべからず、余は行くと仰せられて、おいでになつた。ロシヤの皇太子はブリツヂ迄お迎へして、軍人及び侍官あたりは大禮服を以て整列してお迎へをし、それから宴會をお開きになつて、それをすましてお歸りになつ

たのが午後一時三十分、四時には、八艘の軍艦が舳艫相銜んで神戸を出帆したのであつた。斯様にロシヤの皇太子から御招待があつた様な時分に、おいでになられる様にといふことが言へるか。是は臣下として言ふべきことではない。だから余が行くと言はれたことが、今申した通り、言ふまでもなく陛下の御聖旨であるといふことが明ではないかと言はれた。

五、忠　孝

それで近來天皇機關說がどうとか斯うとかいふ問題があります。今是に立入つて論ずることは出來ませんが、日本の忠君といふものは、他の國とちがふ。孝は何かといへば、孝といふものは忠の中にある。長岡隆一郎君が關東廳に奉職するに就いて、奉天の南大將から私の所に所望せられた。それで長岡君が私の所に來て、何というても私は滿洲へは行きたいが行かない。實は老母が心配するからといふ。そこで私は平常孝道論を唱へるが、其點は俺の店では通用しない。陛下の爲に、又國家の爲に滿洲へ行つて、犧牲的精神を以つて盡さうといふことが孝道だ。だから老母があるから之をどうかうといふことは、是は日本の孝道といふ上からはいかない。平重盛が忠せんと欲すれば孝ならず、孝せんと欲すれば忠ならずというたといふが、平重盛程の人が、斯んなことを言ふ筈がない。それは歷史家が一つあて、見ようと思つて言つたことだ。忠は絕對だ。出來得るならばあの文句はけづりたい。元來忠孝は、陛下に向へば忠、親に向ければ孝、忠が卽ち孝、國家の盛衰興亡には、孝道の奬勵といふことに力を致さなければならない。而して全體孝といふものはどういふことから生れたかと言へば、親の慈悲慈愛が此の孝を生む。世間でも親が子を思ふ半分も子は親を思はないといふことを申しますが、三つ一、百分の一まで親が子を思ふ程に子は親を思はない。親が子を思ふ情はどれだけかと言へば、是は際限ない。私はこの事について實見した事を簡單にお話し申上げます。關東の大地震の時に、私も沿道の慘狀を視察して、此邊までは來ませんでしたけれども、横濱から清水港まで來た。當時清水港の人が此の罹災民に對して大變同情した。九月二日から二十日まで、芝浦から、軍艦が、無賃で以て多くの罹災民を積んで清水港まで運んだ。清水の人は大變之に對して深い同情を寄せた。私も其の狀況を行つて見たが、若い婦人で子供を二三人連れて亭主に死なれた者もあれば、反對に男で子供を二三人連れて女房に別れた者もある。又二人で年とつた兩親及び小さい子供をつれてゐる者もゐる。千差萬別恐らく六萬人以上でせう。それが小遣錢一文なく、食ひ物もなく、着代へもないといふことはみんな同じことである。其の方々が或は九州、四國、近畿、山陰と、親の家に歸る人ばかりではない。兄弟の家に、伯父伯母の家に歸る者もある。又甚しきは東京では食ふ途が無い人やなにかもある。是等の人々が三日や五日は地震の恐るべき話火災の恐るべき話もきいて貰へるが、もう一週間十日となるといふと、一家を養ふ貯へもない、餘裕もない。そこで其の家に居辛くなるだらう。そんな場合に、あの人々は子供を連れてどうするでせうといふ同情が起つて、子供のない人、子供の出來ない人は、子供を預つてあげようぢやないか、それがよからうといふので、其事を縣廳や市役所に行つて話して、愈其の話を罹災民達に持ち出した。子供を

預からうといふ人は、預金などもある相當の人であつたが、親達は子供を皆んな二人なり五人なり膝の上にのせて、お前等を貰ひたい、養つてやらうといふまことに御親切な話があるが、決して心配するな。緣があつて親子となつて、あの恐るべき地震、あの怖い焰の中を一緒に此處まで落ちのびて來た。死ぬれば諸共、飢へれば之も諸共、お前等と離れてどうかうするではないからと云つて、子供を抱きしめて滝なす涙を子供の顏に注いだけれども、一人として子供を置いて歸ります。宜しく賴みます。之を貰つて下さいといふ者が無かつたといふことです。誠に世界中金の草鞋で探してもこんなに子を懷ふ國は無い。たゞ一名も置いて行つた者は無い。併し若しも親を預らうと云うたら、相當置いて行く者があるだらうと思ひます。（笑聲）　親ならば預つて貰ひたいけれども子は離さない。離さないばかりではない、終りにはこの可愛いゝ子を又貰はうとでも言はれるぢやなからうかと言はんばかりで、清水を立つ足が早くなつたといふことだ。此の廣大無邊な親の慈悲に對して、子が孝養を盡し之に酬いぬといふことは是は天罰まさに下るであらうと思ひます。今の拓務大臣の兒玉さんが、一昨年河豚の御馳走に私と一緒に招ばれたが、河豚を食はない。百足でも食ひさうな男が食はないから、どうして食はないかといふと、どうも折角だけれども、母が河豚を食ふなといふから河豚だけは食ふ譯に行かぬといふ。それで始めて河豚を食はない理由が分つた。そこで、けれども君の親父の源太郎大將、あれは山口縣に生れて河豚を食つた。親は盛んに食つたけれども、君が食はないのはおかしいといふと、お父さんはわしとは他人だ（笑聲）　と云つてゐた。實に親が子を思ふ情があふれ出てゐると思ひます。又高知縣の人で、東京市の議員をしてゐたが今日の時勢を慨いて議員を辭した古島一雄、あれは自由黨以來の人で、正しき人であつたが子がない。甥を子にしてそれに女房を貰ひ受けた。それに男の子が生れたので、付けた名が享。今年又子が生れたら敬と付けると、自慢らしく組合せて、先のは星享の享、後は原敬の敬、是はどうも出世をさせなくちやと、自慢の鼻をうごめかしてゐたが、子供の母親は浮かないやうな顏をしてゐるので、お前はさつきから浮かないやうな顏をしてゐるがどうかしたかいといふと、妻君は、嬉しい顏は出來ません。今年若し男の子を生んだ時分には殺されない人の名をつけて貰ひたいといふ。（笑聲）　親は子が出世をして偉いと言はれて殺されるより、當り前でも殺されない方がよいのだ。（笑聲）　此の廣大無邊な親の慈悲といふもの是が孝の實情です。それで孝といふことに付いては、家庭に於いて養はれ、家庭教育は御婦人方の責任が多く、男は中々出來ない。幼少の時分から孝行といふことを植付けて貰ひたい。

六、結　語

先に臥薪嘗膽を叫んだ國民は、ロシヤに對してあれだけのことをやつた。非常時である非常時でないといふことを議論するより、今後十年乃至十一年間、非常時の考を以て國民が其分を守り、多くの力が協調して鼎の足が支へ合ふやうに國家といふものを支へて行つたならば、世界中に日本に對して手向つて來る國はない。それは產業の上に於ても工業の上に於ても其の通りだ。私は世界の富も亦日本へ持つ

て來ることが出來ると思ふ。上の英明なる陛下に八千萬の國民はみな敬從して行つたならば、恐るべきものはない。國家の發展底止するを知らずといふ事になると思ひます。學校でもさうです。みんな平和の上に範をたれ、人の力を借らないで其人の自由の範圍に於いて志すことが出來れば、エライことが出來る。

私當地に參つて、他の地方より非常に生々としてゐるといふことを感じました。それは軍需工業其他の點に於いて、他の所から見るといふと利益に均霑してゐる者が多いだらうと思ひます。だから、彼是の理窟を言ふ間に仕事をして、國家の爲に自分の爲にといふ風に、凡て家庭の一致といふことを以つて立つて行つたならば、御地方が益生きるだらうと思ひます。

私は中央で政黨政治に關係して居りますが、政黨政治にもどらなければ眞の立憲政治は來ない。しかし私共不敏にして政界は遺憾ながら今日の情勢になつて居りますが、是は思ふだけでみんなやらないからです。廣島で私は民政黨の横山代議士を市長にし、助役に政友會の支部の幹事長を就けてやつた。然るによく一致してやつて餘り議論が出ない。市民も非常に喜び、何十年此方ない平和の市政が布かれて居るのであります。はつたり打つたりして平和をかいては損といふ考で國家の伸運を圖らなければならないと同時に、私があなた方にお目にかゝつて長話をしてゐるといふことも、深い因緣があることゝ思ひますから、御地方の繁榮と利益の增進を切に祈り、謹んで今日の講演を終ります。（拍手）

望月圭介先生讃德偈

廿日出彦作

空に望月輝けば
森羅萬象悉く
闇の苦惱を離脱して
聖き悅び感ずなり

波靜かなる瀨戸の海
清き流れに夢の如
浮ぶ大崎上島の
東野村は矢弓潟

平和に眠る箱島や
二子島をば前に見て
右手に船島望みつゝ
鼓に聳ゆる望月家

丸月の屋號は海內に
轟き渡り幾百の
大船小船賑ひて
東西の富集めける

明治維新を控へたる
慶應三年如月の
空の曇りを他處にして
初聲高く光り出づ

先生幼名三郎とて
嚴父と慈母に育まれ
世にも稀なる乳母トモの
情の袖に生ひたちし

慈愛と平和に惠まれし
御恩忘れず只管に
佛を信じ親に孝
二葉の香りいと高し

早くも十四の若さにて
東京遊學志し
終へて長崎高島に
修行の時は十九歳

風貌態度勝るれば
男の中の男ぞと
人に仰がれ慕はれて
未來に望みかけられし

憶へば遠し日清の
戰終りて三年後
國會議員改選に
出馬の意氣は天を衝く

卅二歳の若き身も
士魂佛心溢れつゝ
理想に燃えて國會の
選擧に希望を達しけり

仁俠心は胸に燃え
士道の極意心得て
忍從の德備へける
理想の黨人玆にあり

御國を思ふ一念は
自由黨以來たゆみなく
立憲政治のそがために
諸閥と戰ひ功を遂ぐ

精神到れば鐵さへも
貫き通す意氣をもて
千挫屈せず雄々しくも
處世の大道進みます

佛と秀吉肖りて
信と義理とを縱横に
人情の機織りなして
苦難の政黨御し給ふ

時は歐洲大戰の
シベリヤ出兵その折に
將士慰問の難業を
進んで引き受け果します

政黨政治の確立者
原總裁の信厚く
股肱となりて黨のため
御身を献げ盡しける

原總裁の仆れし後
黨を擧げての分裂に
政友受難極まりて
傳統精神失せんとす

先生起ちて慨然と
節なき黨人顧みず
清き分子と手を取りて
黨精神を再建す

天災あれば人災の
必ず起こる理りを
古今の例もて悟り得て
時運の洞察違ひなし

幹事長たる事三度
前後三年政友の
黨を支へし柱とて
政黨史上に輝かん

時しも昭和二歳の
田中内閣その折に
日頃の忍苦報いられ
遞信大臣任ぜらる

望月先生世に出でて
誠の政治行へば
御代は明るく淨らかに
治まる譽いと高し

政治の要諦霊されし
黙に捧ぐる綽名こそ
古今東西比類なき
人情大臣是なるぞ

人情大臣名もゆかし
津々浦々の果までも
傳へ傳へて敷島の
大和心を勇躍せり

萬世一系窮みなき
我が皇室の尊さを
外國までも知らせんと
骨を碎きて勵みける

今上陛下の御德は
明治大帝そのまゝと
親しく仰ぎて感じ入り
世の人々に傳へらる

上に英明類ひなき
若き大君仰ぎつゝ
無上の幸に感極み
七生報國誓ひます

時は昭和の四年秋
御即位大禮その折に
内務大臣勤めまし
御警衛の任いと重し

白衣整へ死を決し
沐浴齋戒怠らず
天の御加護を祈りつゝ
己を盡して努めける

御稜威は申すも畏けれ
至誠!!天に通じてか
無事圓滿に終へにける
動は永久に輝かん

皇室を敬ふ念厚く
智勇勝れて國民に
信を享けたる蓋世の
英雄秀吉學ばれし

痴癖無類の信長に
仕へて一語の不平だに
言はず勤めて報酬さへ
求めぬ意氣に感じける

政治生活四十年
終始一貫誠あり
節を枉げたる事もなく
操守は古武士にさも似たり

慈悲圓滿の人柄は
釋迦の御教そのまゝに
自他融合の實を擧げ
世の人々は慕ひ寄る

智と仁勇の三德は
御身に備はり麗しき
お顏の皺波一々に
佛の影を偲ばせり

忠と孝とはその基
誠の一字に收まりて
君民一體有難き
我が國柄を諭します

忠義の一途迷はずに
押して進まば孝道は
自然開けて忠孝は
兩全なりと教へます

忠義の臣は何時の代も
孝子の門に出づる理を
世の種々の例證もて
若き子弟に說き給ふ

廣大無邊親の慈悲
譬へ樣なき大恩を
忘れ勝なる今の世に
孝道說きて勸めける

自己の本分果しつゝ
日々の勤めを勵みてぞ
報國盡忠全しと
說きて世相を誡めぬ

他人を咎めず吾を責め
涙と共に人の道
忍びて歩まば天帝も
見捨てまじとの教あり

忿兵敗るの諺を
常に引用説きまして
奔馬の如き若人の
心に鞭を當て給ふ

輕きもの程重々と
取りなす術を心得て
人情の機微捉へつゝ
俗世に生きよの教あり

人は己の分を知り
他をば侵さず一筋に
誠の心磨きつゝ
努め勵めと説き給ふ

天の使命を悟り得て
他人を頼らず當にせず
恨まず怒らず安らかに
此の世に處せよの教あり

髪の毛一筋見逃さぬ
天の在る事忘れずに
表裏陰陽更になく
誠に生きよと諭します

佛の智慧に較べなば
人みな凡夫小人ぞ
賢愚は虚事驕るなと
謙讓の德勸めらる

我慾を棄てゝ無理をせず
先づ他人をたて只管に
利己を慎み淨らかに
生き通せよの教あり

勝に乘じて進み過ぎ
勢力盡くるを心して
一歩退き亦次の
備へあれよと諭します

己を護らず他を護る
佛の御教説きまして
すさみすさめる今の世の
人の心を和めけり

差別は卽平等と
誨へまします御意は
思想惡化の聲高き
時の世相を誡めぬ

家族制度の花咲ける
吾が國園に外國の
惡しき思想は芽生えじと
輿論の指導に努めける

天に愧ぢざる心もて
自己を省み他を迎へ
正しく直く暮せよと
教へまします尊さよ

無我中道の佛心に
聖く生きますその様は、
神か佛か菩薩位か
あな慕しや懐しや

嗚呼常闇の政治界
正義の光消え果てゝ
權謀術數極めつゝ
蝸牛の角に爭へり

憲政布かれて五十年
昭和の御代も十年の
皐月の空は變りなく
暗雲低迷光なし

滿蒙の空風荒び
太平洋上波高く
國難來の聲あるも
政黨眠りて死の如し

憲政常道夢と化し
非常の聲に怯えつゝ
左顧右盻にて日を送る
政黨の影いと薄し

自黨を思ひ國家無く
他派を傷け自派護り
協力の念更に無く
國民の信地を掃ふ

自繩自縛は世の習ひ
自省自奮のなき政黨
抗爭分裂繰り返し
他滅を待たで自滅せん

政黨自體のためならず
國家在りての政黨と
玆に目覺めて奮ひなば
一陽來復違ひなし

非常時日本を救ふため
政治國防産業は
各自の本分護りつゝ
協力一致盡すなり

望月先生意を決し
黨派の觀念打ち越えて
國民國家のそが爲めに
擧國一致に參じけり

是ぞ眞の憲政を
擁護し給ふ守護神と
輿論は既に定まりて
國民擧つて讃仰す

昭和十年秋初め
推されて三度遞相に
就かれし御意氣察しなば
嘸や鬼神も泣くならん

此の世の樂を顧みず
死後に讓りて國のため
骨を碎きて勵まるゝ
御精神の程尊けれ

いざ吾が友よ諸共に
暗夜に出でたる望月の
光を仰ぐ心にて
聖く正しく生き拔かん

教訓の數々胸に祕め
非常の時世に目覺めつゝ
共に共々助け合ひ
御國を護り支へなん

昭和十年十二月十日印刷
昭和十年十二月十五日發行
【非賣品】

編輯兼發行者　財團法人 靜岡縣興誠商業學校　廿日出鹿
印刷者　濱松市元城町一七三　高田壬午郎
印刷所　濱松市元城町一七三　株式會社 開明堂

355
1231

終